

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第198期）

愛知県東海市 稲葉 誠博

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和4年10月28日から基本法制研修B第9期、11月21日から令和5年1月19日まで第2部課程第198期の研修を受講しました。

派遣元の東海市は、愛知県の西部、知多半島の西北端に位置し、中部圏最大の鉄鋼基地のある「鉄鋼のまち」として発展してきた人口約11万4千人の都市です。今後の社会課題を捉えた取組みとして、地域コミュニティを主体としたまちづくりや地域資源をいかしたまちづくりに取り組んでいます。

2 研修参加への決意

入庁以来、私は土木課や都市計画課に配属され、まちづくりに関わる業務に従事しており、地方自治制度や公務員制度とは関わりの低い部署で仕事をしてきました。そのため、今回の研修参加は、まちづくりに必要な政策形成能力、行政経営能力、自分自身や仲間を守るための知識を習得する機会ととらえ、研修への参加を決めました。

3 研修概要

(1)基本法制研修B第9期

基本法制研修Bは、自治体職員として習得しておくべき行政法、民法、地方自治制度、地方公務員制度及び地方財政制度を講義形式で学ぶものでした。各講義では、効果測定が実施されるため、講義の内容の理解に努める訳ではありませんでしたが、講師の方からは過去のご自身の経験について、当時の苦労

話などを含めてお話を頂きました。特に、戦後の日本において、どのように地方自治制度が創設されてきたかの話などは、今の業務では知り得る事のない話題であったため、記憶に残る講義となりました。

(2)第2部課程第198期

第2部課程は、講義課目と演習課目で構成されていました。講義課目では、各分野で活躍している著名な方々が講師として登壇し、幅広い分野の知見の必要性を認識することができました。演習課目では、講師養成課目、事例演習、政策立案演習をグループに分かれて、自主的に議論を進めていくものでした。特に、政策立案演習では、6人のグループメンバーで、愛知県蒲郡市の西浦地区をモデル地区とし、「地方都市における関係人口の活用について～地元団体の育成を通じたまちの再生～」をテーマに、それぞれ立場や境遇の異なる6人が、西浦地区の成り立ち、現状分析、事例収集、目指すべき姿、必要となる施策、その効果などを、議論を重ねながら、提言をまとめることができました。答えのない中、粘り強く考え、自分ならどうするかを考える経験ができたのは、非常に良い経験になりました。

4 研修生活

(1)寮生活

研修期間中は、自治大学校の寮で集団生活を送ることになりますが、憩いの場となるのが、各フロアにある談話室です。談話室には、派遣元や各県人会からの支援物資・差し入れが多く届きました。私のフロアでは、「全国うまいものフェア」と名を打ち、北海道から沖縄までの各地の銘品・お酒を堪能

しながら、夜な夜な、所属自治体のこと、自分自身のこと、悩み事を語り、親睦を深めました。

(2)自治会活動

全国から集まった研修生は、研修期間中の交流や卒業後のネットワーク形成を含め、多くの研修生と交流することを楽しみに参加していました。一方で、新型コロナウイルス感染症対策として、集団行動に対する制限・制約は、自治大学校の研修生活においても同じでした。私たちの期では、集まらずに交流を深める事業として、研修期間中の約1か月を大会期間とする「ウォーキング大会」を開催しました。このウォーキング大会は、各自のスマートフォンの万歩計アプリを活用し、期間中の歩数を入力しながら、各フロア、各個人で競い合いました。各フロアで歩数を増やす取組みとして、グループでのジョギングや散歩の実施、立川の駅前まで歩いて出かけるなど、ウォーキングをしながら研修生と話をする機会が増えました。期間中に約90万歩を歩いた方もいれば、マイペースに歩を重ねた方もいて、長い研修生活において、各自が健康管理に目を向けることができ、ウォーキング大会の結果を大教室にて表彰式として実施することができました。

(3)知識を深める活動

長い研修期間、週末の過ごし方も週末毎に異なりました。私は、フロアのメンバーで旅行に行く週もあれば、関東近郊で働く故郷の仲間と交流を深める週もあれば、一人、街歩きをする週もありました。最後の週末、私の人生において最も疎遠な分野であり、このような機会がなければ訪れる事がないと思い、東京国立博物館を訪れました。何気なく訪れた博物館には、「日本沿海輿地図」が展示されていました。江戸末期の日本を形作る全国の小さな自治体の名前が海岸線に沿って記載されており、政策課題で取り

組んだ地区の名前も記載されていました。自治体職員が取り組む今日の行政活動は、古の地図に残る地名を消さずに、後世に継承する役割を担っているのではないかと考え、その役割の重要性について認識する良い機会となりました。

5 研修に参加して

通常業務から離れ、研修に専念することができた自治大学校の研修は、所属自治体の課題や自分の職場環境について考え、研修を通して全国の研修生と交流を深めることができた大変貴重な経験となりました。自治大学校での経験を日々の業務に取り入れながら、答えのないまちづくりに、全国の研修生と邁進してまいりたいと思います。

最後に、約3か月、職場を離れ、研修に参加する事にご理解を頂いた上司、職場の仲間、自治大学校の教官、教員の皆様に感謝を伝え、「卒業生の声」とさせていただきます。